

通期の見通し

平成 22 年度の販売電力量については、第 3 四半期までの実績を踏まえ、平成 22 年 10 月にお示しした想定値（2,960 億 kWh）を若干下回る 2,953 億 kWh を見込んでおります。

売上高は、前回公表した想定値（連結：5 兆 3,850 億円程度、単独：5 兆 1,650 億円程度）を変更しておりません。

一方、費用面では、電気事業において、柏崎刈羽原子力発電所 5 号機の発電開始による燃料費の減少などが見込まれます。

これらにより、経常利益は連結で 2,400 億円程度、単独で 2,000 億円程度、当期純利益は連結で 1,100 億円程度、単独で 900 億円程度に変更いたしました。

<連結>

売上高	5 兆 3,850 億円程度（前回発表予想：5 兆 3,850 億円程度）
経常利益	2,400 億円程度（前回発表予想：1,900 億円程度）
当期純利益	1,100 億円程度（前回発表予想：800 億円程度）

<単独>

売上高	5 兆 1,650 億円程度（前回発表予想：5 兆 1,650 億円程度）
経常利益	2,000 億円程度（前回発表予想：1,600 億円程度）
当期純利益	900 億円程度（前回発表予想：650 億円程度）

（注）経常利益と当期純利益については、柏崎刈羽原子力発電所の全 7 基のうち、1 号機・6 号機・7 号機に加えて 5 号機の運転計画を織り込み算定しております。